

「桜の樹」ニュースレター vol 26

岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 2023.9



舎人公園 寄り添う柳と桜

「逆境も順境に！」 さくら（かえる）

コロナ禍、巣鴨カフェは人数制限をしながら開催していましたが、それぞれのご事情でカフェに参加できない方もおられ、皆様と何とかつながり続ける方法を模索しながら、はじめたのが、この「桜の樹」ニュースレターとホームページでした。ニュースレターには、巣鴨カフェに参加された方、各地で新しくカフェを開いた方、遠方で参加できない地方の方などが原稿を寄せてくださるようになり、新しい出会いにも恵まれ、紙面上ではありますが、カフェのようにつながりを保ちつづけることができました。

そして、最近では私自身が病状の進行のためカフェに参加することやこのニュースレターを作成することも厳しくなってきましたが、皆様が変わらずに寄せてくださる原稿やお写真に力をいただきながら継続して行くことができました。感謝申し上げます。

症状が急激に進行しはじめた今年の夏のはじめ、どんな経過をたどっていくかわからないけれども、この太陽いっぱいの夏を笑って過ごすとお約束をしました。いま私は、これまでの人生の中で出会ったたくさんのひとたちに囲まれながら、笑って毎日を大切に過ごすことができます。

そして、巣鴨カフェ「桜」には、たくさんのエールが集まってきています。「紙面上のカフェ」を楽しみにしてくださるといふモンモンさんからの原稿、このタイミングに！本当にうれしかったです。感謝申し上げます。

巣鴨カフェのお手伝いがしたいと申し出てくださったウラちゃん、感謝申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。皆様の力で逆境も順境に！巣鴨カフェ「桜」、これからもどうぞよろしくお願いいたします。



「紙面上のカフェ」

モンモン

治療をしながら元気に出かけられていた頃は参加したいカフェを見つけては足を運ばせてもらっていましたが、最近は病状の進行にともない一人での外出が難しく、カフェへの参加も減っていました。

そんな折、カフェの代わりにしてくれたのがニュースレターの存在です。

カフェによって発行されているニュースレターはいくつかありますが、写真や挿絵などのアレンジから掲載される記事の内容までそれぞれ個性があり興味深いです。

カフェの様子であったり、樋野先生の著書や「言葉の処方箋」への感想であったり、寄稿者の日常や趣味、治療経過や思いなどにふれることができます。

この「桜の樹」ニュースレターは、毎回私に良き邂逅を下さり「紙面上のカフェ」に参加させていただいているようです。

カフェへの参加は難しくなりましたが、ニュースレターがもたらしてくれる「紙面上のカフェ」を寄り添いの場の一つとして、これからも楽しみにしています。

「巣鴨カフェのお手伝いがしたいです」

ウラちゃん

何かあるたびカフェには助けていただき心強く感じています。今後は微力ですがカフェのお手伝いをさせていただけたら嬉しいと思っています。父が闘病中は、病気や老いや生きること、それ以外にも色んな事を考える機会を得ました。下記は父の癌の経過です。亡くなってまだ日が浅いので、記録的な表現になってしまいますがどうぞお許しください。

2018年5月 胃がんステージ3のB

2018年10月 胃全摘手術

2020年4月胃がん再発 <新型コロナ4/9~5/25 緊急事態宣言>

2020年5月~2021年4月まで抗がん剤治療（これ以降は、本人の希望で抗がん剤は中止）

2021年5月 アルツハイマー初期診断

2021年6月 介護サービス利用開始、週1ヘルパーさんによる料理支援

2022年7月 舌がんの診断、切除手術を予定

2022年8月 舌がん手術の前日 首のリンパにも見つかる

父は積極的治療（首を開く、舌を1/2切除、抗がん剤+放射線）は身体と精神的な負担があまりに大きいため、緩和的治療を選ぶ。

2023年5月6日 舌の痛み、ひどい倦怠感により入院

2023年5月15日 退院 主治医から病状説明はほぼなく、家に帰るなら今しかないという言葉が残った。後に知ったことだが、主治医から訪問医への引継ぎには、余命3ヶ月~6ヶ月と記載されていたという、その時話してくれたら良かったのと思った。

帰宅後すぐ、在宅医療の事業所契約の書類と共に、父がどこで最期を迎えたいのか、延命処置を行って欲しいのか確認の書類を出すよう言われる。

父は在宅での最期を選んだので、私は父の家に寝泊まりすることになった。土日は弟が交代してくれて私は土日は自宅で眠った。職場へ休みをお願いをする時、「終末期」という言葉を使ってよいのか迷った。誰にも言われていないが、人々の動きがそれを表していた。

実際父は日々変化し、歩く、立つ、話す、食べる、飲む、できていたことを毎日1つ1つ手離していった。看護師さん、ヘルパーさん、家族、友人が毎日訪ねてくれたので、孤独ではなかった。

2023年6月9日 最期の息を引き取る時まで、私は一雫も取りこぼさぬよう見つめていた。

5月15日から6月9日の間のすべての出来事は、たいへん得難い経験で1本の映画を観終えたような感もあります。

ウラちゃんのお父様は、おひとりで巣鴨カフェに参加されていましたが、それが難しくなってきた時に巣鴨にお父様を連れてきてくださったのがウラちゃんでした。そのときお父様は、皆さんの前で「勇気」をもらった！と仰ってくださいました。コロナ禍カフェを継続していくことに難しさを感じていた私は、その言葉、その姿に「勇気」をいただいて、今までカフェを継続してこられました。そして、今回のさらなるウラちゃん嬉しいお申し出に感謝申し上げます。ウラちゃんのこれまでのご経験は、リアルで、私たちが知ることができないようなことを経験されています。どうかその貴重なご経験を大切にしながら、ご無理することなく、巣鴨カフェ「桜」に関わっていただけたらと思います。皆様どうぞよろしくお願いたします。





「オノマトペ」

ミニオン

ぶらり散歩の時 古本屋に立ち寄り 目に入ったのが オノマトペ

(自然界の音・声、物事の状態や動きなどを音(おん)で象徴的に表した語)の絵本です。

可愛い本なのです。

今日はオノマトペで

朝だ おはようございます。目がしょぼしょぼ。

お散歩行こう。

お日様キラキラ。綺麗お花キラキラ。頑張って歩いたお腹がペコペコ。ステキなお店発見。ドキドキ。どれ食べようかな。ウキウキ。沢山食べてお腹パンパン。でも甘いものが食べたいな暑いので氷 ガリガリ。そして目を閉じて ウトウト。

お風呂に入ろうとピチャピチャ。しゃぶしゃぶ。

お休みはスウスウ。グウグウ。

こんなオノマトペで生活したらリラックスでくのは。ひとつの提案ですけれど。

私はミニオン言葉で。

@&~…^_`.?Dahl¥で生活してます。

自分だけがわかる意味不明な言葉。決して変な人ではありません。



「コスモスの花」

凧ちゃん

私はコスモスの花が大好きです。漢字で書くと秋桜。

おもに秋に咲いて、花卉が桜ににているところからついた和名だそうです。毎年夏の終わりにコスモスを見つけると、秋の訪れを感じます。

コスモスの花言葉に、「乙女の純潔」とあります。汚れがなく清らかなことという意味です。ずっと背筋を伸ばして風に揺られている様は可憐な乙女のような雰囲気があります。

コスモスが秋風に揺られている風景は、私の一番のお気に入りです。可愛らしいお花とそれを支える緑の茎の力強さを感じるのです。

コスモスの花の名前の意味に、「調和」があります。

調和とは、「全体が程よく釣り合い、矛盾や衝突がなくまとまっているもの」とあります。

家族の集まる部屋に飾ったり、大切な人に贈ったり、コスモスの「調和」の力をもらえるかもしれません。

2年前の9月下旬、初めて千葉県にあるコスモス畑に行きました。とても広い公園で、四季折々の花を咲かせている公園です。コスモスは、可愛らしいお花を咲かせ、そよ風に揺れながら沢山咲いていました。満開ではありませんでしたが、白や黄色、ピンクなど、とても鮮やかでした。そして、澄んだ青空とコスモスの花に出会えて本当に嬉しく思いました。手術から半年、抗がん剤治療中の私にとって、言葉に表すことの出来ない何かを沢山受け取り感じる事ができました。

酷暑が続いていますが、夕方には気温が下がる日も多くなりました。ほんの少しですが、秋の気配を感じています。夏の終わりを感じながら、コスモスの花を見て秋を感じる、自然の恵みに心から感謝しています



「私はいま、戦場で戦っているのです。どうしてここにいるのか自分でもわからない。街を歩いていたら急に誰かに声をかけられて、ここに連れて来られ、わけもわからず戦っているのです。うちに帰りたいと思うけれど帰り道がわからない。ただ毎日、どうしてこうなってしまったのか考え続けているのです」私はその日、小雨が降る午後の公民館の一室にいた。今日、初めて参加したカフェのテーブルで、今の自分の気持ちを聞かれ、こんなふうにした。私は病気になり、これまでの生活が一変したことを、突然、誰かにこれまでと違う世界に投げ込まれたように思っていたからだ。夜が来ると同じ夢を見る。夢の中ではすっかり安全なところに戻っていて、「なーんだ何事もなかったじゃないか」って安堵する。でも目が覚めるとやっぱり私は戦場にいてあれは夢だったのかと心の底からガッカリする。そんな毎日を送っていた。

私の話が全て終わると・・・それまで黙って聞いていた向かい側に座る女性が口を開いた。「私は戦わない。私はその敵と一緒に共存して行く方法を考える」「え？」思いがけない言葉だった。彼女は戦ってはダメだと言う。だって味方が自分なら敵も自分だからだ。「でも、でも そうじゃない。私だって好きでここにいるわけじゃない。」行き場のない気持ちに唇を噛んだ。

黙っていると 見かねたカフェの店長が「高橋さんは 何が好き？何がしたいの？」と聞いてきた。またこの質問だ。度々繰り返されるこの質問は、いろいろな人の口から何度も私に問うてくる。まるで神様が何度も私に問いかけているみたいに。私はしばらく黙った後に「わかりません」と答えた。カフェの帰り道、さっきの彼女と出くわした。私は、燻っていた気持ちを投げかけてみた。薄曇りのベンチに座り、彼女がぼつりぼつりと話し出す。「最初はね、足が痛いなあと思ったの。なんの病気かわからなくて歩けなくなった頃にそれが乳がんの骨転移ってことがわかったの」彼女は病気のことも笑顔で話す。病気のためにこれまでの仕事ができなくなったのだそうだ。しかし、彼女の話はここで終わらない。できなくなった仕事の代わりにこれまでやりたいと思っていたケーキ屋さんを始めることにしたのだ。住んでいたマンションを売り、一軒家を買って、1人で改造してお店にしたのだという。

「え？そうなの？」私は、彼女の小さな体から溢れるダイナミックな行動に驚いた。彼女はシングルマザーであり、2人の子供も育てていた。どこにそんなパワーを秘めているのか。世の中に、お菓子作りの好きな人はたくさんいる。しかし、自分の店でオリジナルのケーキを販売するところまで行動できる人はどれくらいいるのだろう。彼女はこれまでにいろいろなケーキ屋さんを巡り、ケーキを買うついでに、どうやってお店を出したのかを一軒一軒聞いてまわったのだという。興味深く、面白い話だった。「こんな人がいるんだ」私は、1人っきりの子育てやカフェを回り、試作品を作る彼女を想像してみた。話に耳を傾けているうちに嬉しくて悲しくて面白くて、いろいろな感情が私の中に湧き上がってきた。「ここに、こんなに面白い人がいる！」私を見る彼女の黒い瞳が力強く輝いている。彼女と別れ、帰路につく車の中で、お土産のレモンケーキを一口食べた。甘くて酸っぱいレモンの味はこれまでに食べたことのない1番の味だった。食べかけのレモンケーキを見てさっき女性の笑顔思い出した。いつのまにか雨は上がり、オレンジ色の夕日が遠くまで続く緑の草花の全部を柔らかく照らしている。雨粒が残るたくさん緑の葉は風に吹かれて生き生きと波のようにどこまでもそよいでいる。

私はその日から 戦場の夢を見なくなった。

編集後記 さくら(かえる) 「桜の樹」ニュースレターvol 26 皆様の応援のおかげで完成しました。巣鴨カフェ「桜」は、参加してくださる皆様がサポーターであり、そうした皆様と紡いできた時が、あの優しく温かい場となってきたように思います。ソメイヨシノ発祥の地、巣鴨にしっかり根を張る「桜の樹」のように・・・これからも巣鴨カフェ「桜」同様、紙面上のカフェ「桜の樹」ニュースレターをどうぞよろしくお願いたします。次回からは、私は参加者として、編集をウラちゃんにお願いします！

